

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを理解しており、事業所独自の理念を作りあげている。	○	理念に地域密着型サービスが反映されていないので、近隣の方等と話し合う機会を持ちたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス時や日々の業務の際に再確認し、日々のサービスに反映できるよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各居室や事業所内に理念を掲示し利用者や家族に理解して頂ける様努めている。	○	地域の方々が理念を目にする機会が殆どない為、今後地域の方にも理解して頂ける様に努めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入り、町内の行事に参加出来る様運営推進会議でも働きかけている。散歩等で近隣の方と挨拶程度なら交わすが、会話等までには至れていない。	○	認知症に関する普及活動、説明会など行っていない。今後、町内の方との交流を深め、理解して頂ける様に努め、地域活動に参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を理解し、より良いサービスの提供に取り組める様に努めている。	○	ただ、具体的な改善とまではいっていないので、今後は評価のねらい等をもっと深く理解し、より良いサービスの向上に取り組んでいきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っているが、積極的な意見の交換までいけていないので、もっと参加を促したり、意見や報告等を積極的に行える場にしていきたい。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者への広報紙・パンフレットの配布をし、ホームを理解して頂ける様努めています。運営推進会議への参加も促し、実情を伝える機会も設けています。	○	市の担当者との積極的な行き来がなく、実情を伝える機会が少ないので、今後お互いの行き来を増やし、意見の交換を行える様にしていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会がなく、理解していない。	○	今後、外部研修への参加や内部研修の実施をし、理解していける様に努めたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待法に関する理解を深め、虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、理解を得ているが、分からなくなったり不安等が生じ、面会時等に質問等があった時はその都度説明を行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員が利用者からの意見や苦情等が表しやすい様、居室で話を聞いたり、皆が居る中で話をしながら意見等を求めたりしている。又、話を聞いた管理者及び職員は全職員に話が伝わる様申し送りやカンファレンス等の時に話し合いをし、対応を行う体制を整えている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回ユニット便りを配送している他、面会時に状態報告や出納帳の確認・領収書を渡したりしている。又、急な体調不良等の状況見られた時は常に電話での報告を行っている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付窓口を設けている事を説明している他、管理者や職員が意見や苦情を聞き、話し合いをし、日々の業務に取り入れたりしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受入れ等、職員の意見や提案等を聞いているが、運営等に関する事で職員の意見を反映されているかは定かでない。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、人数少なく急な休み等が出た場合の職員の確保が難しい。それでも何とか利用者本位の暮らしの支援を行える様に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が異動したり、新しい職員が入った際は利用者に十分説明をし、ダメージを最小限に抑えている。又、新しい職員、異動してきた職員には詳しく引き継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講が殆どなく、報告会や伝達研修もない。又、スーパーバイザーの確保もされておらず、育成の環境が整っていないと思われる。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や他法人との交流の機会が殆どなく、相互訪問等の活動もない。	○	地域の同業者との交流・連携の機会を設けたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は管理者や職員の現状を把握していない 他、ストレスの軽減を図る取り組みもない。休憩場所の確保も配慮に欠けている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場の状況・職員の努力や勤務状態を把握出来てないと思われる。健康診断は実施しているが、職員の心身の健康を保つ体制及び労働条件が整っていない様に思われる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に利用者や家族から話を聞き、希望や意向等を把握する様努めている。話しにくかったりしている時はこちらからアプローチして話を聞き出す様にしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの意向を十分に踏まえ、希望に沿った支援を見極めて対応を行っている。すぐに対応できない時は方策を検討し、徐々に支援していける様に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族等の双方の意見を聞き、安心して生活していける様、職員・他利用者と共に雰囲気を作り、徐々に馴染める様努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に日々の生活を楽しんだり、一緒に考えたりし、又職員が利用者に支えられたり教えられたりとお互いに必要で大切な存在だという関係を築いていける様努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に職員は家族に利用者の状態を伝える他に家族の意向等を聞き、一緒に利用者を支えていく関係を作る様に努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族のこれまでの関係や双方の思いを職員は理解し把握に努めている。又、利用者の日々の様子を面会時や電話等で伝える他、気軽に尋ねて来れる様に努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方にも気軽に面会に来て頂いたり、電話等で連絡できる様に支援行っている。また、希望に応じて利用者にとってなじみの場所や知人がいる所にいける様、職員もしくは家族の協力を得て支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立しない様に職員が間に入ったりしながら支え合って生活していける様に努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も利用者や家族との築いてきた関係を継続する様に努めており、利用者や家族にもその旨を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望等を聞き、本人の立場になってみて意向の把握に努めている。把握が難しかったりした時は家族からの情報を得て把握出来る様に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や個性等、利用者本人及び家族から情報を得て把握している。普段の生活でも活かせる様に利用者のプライバシーに配慮しながら、家族の他親類や知人からも情報を得ている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者一人ひとりの生活リズムや暮らし方、出来る事、分かる事等を把握し、変化を見逃さない様に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者及び職員や家族等の意見や希望に基づき作成している。しかし、利用者の意見が反映されていない計画もあるので見直していきたい。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明示しており、期間終了後は見直しを行っているが、状態変化等が見られた時はその都度見直している。利用者や家族等の意見の収集も行い、アセスメントを行う様になっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や身体状況等について個人ケースに記録の他、申し送り（日誌）にも記載している。介護計画の見直しに活かしているが、もっと細かく記録していける様に努めていく。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、自主サービスを利用し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア団体との協力体制が十分でない所あり、協力を呼びかけている。近くに町内会館等があるので、活用できる様町内会長や民生委員等への働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、行政独自で行っている配食サービス等の他のサービスを利用していないが、利用者の希望に応じて自社サービスで対応している。	○	
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内で解決出来ない困難な事が出来た時、地域包括支援センターと連携し長期ケアが行える様協働し対応していきたい。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族等の希望の医療機関に受診しており、急変時等にも対応して頂いたり、相談に乗って頂いている。受診後は家族にも説明行ったり、必要、家族希望にて一緒に受診に行ったりしている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との連携を図り、相談したり治療をしている。又利用者も安心して受診をしている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持った職員がいる他、週1回訪問看護もあるので、その都度利用者の健康状態等において相談できる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点で退院に向けた支援体制について家族や病院側とも話し合う体制を取っている。常に病院側との情報交換等をし、早期退院に努めている。週に1～2回管理者は状態確認を行っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、入居時に事業所としての方針を明確にし、説明行っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変や状態の変化（悪化）にて対応できる事、困難な事を職員間で話し合っている。又、家族にも説明し理解して頂くと同時に利用者や家族の意向も踏まえ、医療機関と連携を図り支援を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	職員は利用者が別の場所に移り住む事のダメージ を理解し、家族及び移行先へ十分な話し合いや情 報交換を行い、ダメージが最小限となる様に努め ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者へのプライバシーの配慮や声掛けには十分 に注意し対応していける様努めている。個人情報 は利用者及び訪問者の目の届かない所に保管行っ ている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	利用者の状態に合わせ説明や声掛けを工夫し意思 表示できる様努めている。普段の状態を把握し、 こちらからも選択肢を複数出し自分で選べる様に している。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者が何か希望を伝えたい時は急がせず、ゆっ くりと落ち着いて話せる様、職員の方もゆったり と話しかけたり、聞く体制を心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	衣類や整容の乱れは職員の方でさりげなくサポー トし、自分らしいおしゃれが出来る様支援してい る。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の方は管理者が行っているが、家族及び本人の強い希望でお金を持っている利用者は管理者の方で本人了解の下、いくら持っているか確認行っている。買い物時の支払いも職員が助言を行ったりし自分で支払ってもらえる様に支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が買い物に行きたい場所や行ってみたいと思っている所に外出できる様に努めているが、受診や他利用者の状態変化等で行けない事が多い。買い物等でも近場だけで済ませてしまう事がある。	○	なるべく利用者の希望の場所・店への外出を実践していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者に行ってみたい所を聞き、全員で出掛けたり、個別に行きたい（主に自宅等）所は家族の協力を得て一緒に行って頂いたりしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が手紙や電話を利用する際は職員の方でも希望通りに行える様に支援行っている。手紙等が届いた時は居室で渡す様にし、電話の時、利用者望めばスタッフルームの方に入り、会話内容が聞かれない様考慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しているが、遠方や仕事の都合等で時間外に来られた場合も対応し面会して頂いている。職員も利用者・家族との会話を行い、居心地よく過ごして頂ける様に努めている。家族より宿泊の希望がある時は寝具や食事の提供をし対応出来る体制になっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、行わないという姿勢でケアに努めている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に状況を説明し同意を得てから行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>今後、全職員交代で救急救命の研修の受講及び定期的な訓練が必要。又、応急手当や緊急時の対応等、日頃から確認していく様にしていく。</p>
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>今後は近所の方への理解・協力を得られる様働きかける必要がある。又、非常防災セットの準備がされていないので、至急用意をしていかなければならない。いつ災害が起こるか分からないので近所との協力が必要不可欠である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び状態変化や面会時等に家族に起こり得るリスク及び対応策を説明し納得して頂ける様努めている。又、職員間でも日々の業務の中で起こり得るリスク等の確認を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの他、本人の訴えや表情・顔色等の観察を行っている。ちょっとした異変でもケースに記録し必要に応じて受診やかかりつけ医への相談等も行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人のケースにファイルしており、薬の目的や副作用等の把握に努めている。状態変化等がある時はすぐに主治医・家族に報告、記録も行っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす身体への影響を理解しており、食事で食物せんいが多いものを使用したり、水分補給、散歩や掃除等での軽い運動を促し、自然排便が出来る様工夫している。又、下剤内服している利用者は状態を見て薬を減らしたりし、なるべく自然排便が出来る様促している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	イソジンでのうがいや義歯の洗浄等、一人ひとりに声掛けや一部介助にて対応行っている。又、週1回～2回ポリデントを使用している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は1日のカロリー及び水分の摂取量を概ね把握しており、体調不良や注意が必要な人(水分制限)の摂取量を記録している。カロリー計算は行えるが全体的な栄養バランスや栄養摂取状況は会社内の栄養士より助言や指導を行ってもらわなければならない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、それに基づいてうがいや手洗いの他、次亜塩素酸水の使用にて対応を行っている。又、利用者や家族にも予防法や対応を説明を行い、質問や不安な点がある時はその都度対応・説明を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	次亜塩素酸水やハイター等での調理器具及び布巾・食器類の毎日の消毒を施行。マニュアル等も掲示・作成しており、職員は周知し実行している。食材の方も早目に使い切る様心掛け、食材を頼む日等で在庫確認、冷蔵庫整理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外や玄関内に花や観葉植物を設けたりしているが、近隣の方達にとっては未だ親しみにくそうな感じも見られている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に確認しながらテレビの音量の調節を行ったり、電気等を消して自然光で過ごしたり、又、まぶしすぎたりする際はカーテンを閉めたりし対応している。職員も足音や話す声の高さに気を付け、利用者から苦情等が出た時は速やかに改善を行っている。ユニット内も季節に合った装飾を行う他、外の景色を楽しみ、一緒にその季節の行事等を話したりしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で楽しめるスペースを設けている他、その中でも一人で過ごせたりする箇所も設けている。又、話が合う人同士お互いの居室を行き来し会話を楽しんでいる場面も見られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使っていた物等を持ってきて もらっているが、後から出た要望には家族に伝え 持ってきてもらったり、本人と一緒に職員が買い 物に行き購入してきたりし、過ごしやすい居室 に出来る様取り組んでいる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホール内に温・湿度計を設置し温度確認を行っ ている他、利用者に確認の下、冷暖房機を使用し 温度調整している。又、ホール内や居室の換気も 利用者に確認の上、窓の開閉及び換気扇で行っ ている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール内及びトイレ内・浴室手すりは設置され ているが、居室やベッド等にも利用者の希望に て設置を行っている。流し台等、少し使いに くそうな箇所もあつたり、転倒につながり そう箇所は注意し改善を行う必要がある。又、 出入口が狭く、車椅子及び歩行者、シルバ ーカー利用者には不便な所も見られている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室やトイレ、洗面所等の場所が分かる様 に、ネームプレートや表札等を用いている。又、 一緒に移動し何が混乱の原因になっているか 把握したりし片付けたり、見えない様にしたり 等の対応を行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	畑に作物を植えたり、ホーム外の草取りを行 ったり等、又玄関前にベンチ・テーブルを運び、 ティータイムもしくはバーベキューを行い、 楽しんだり活動を行い、利用者がその人らし く生活していける様に取り組んでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・残存機能を活かし、出来る事は積極的に行ってもらい、スタッフが間に入り利用者同士の関係がスムーズに行き、お互い助け合いながら、その人らしく生活していける様に援助しています。
- ・残された人生を楽しみながらその人らしく生活して頂ける様、常に笑顔や笑いが絶えない様に努めています。